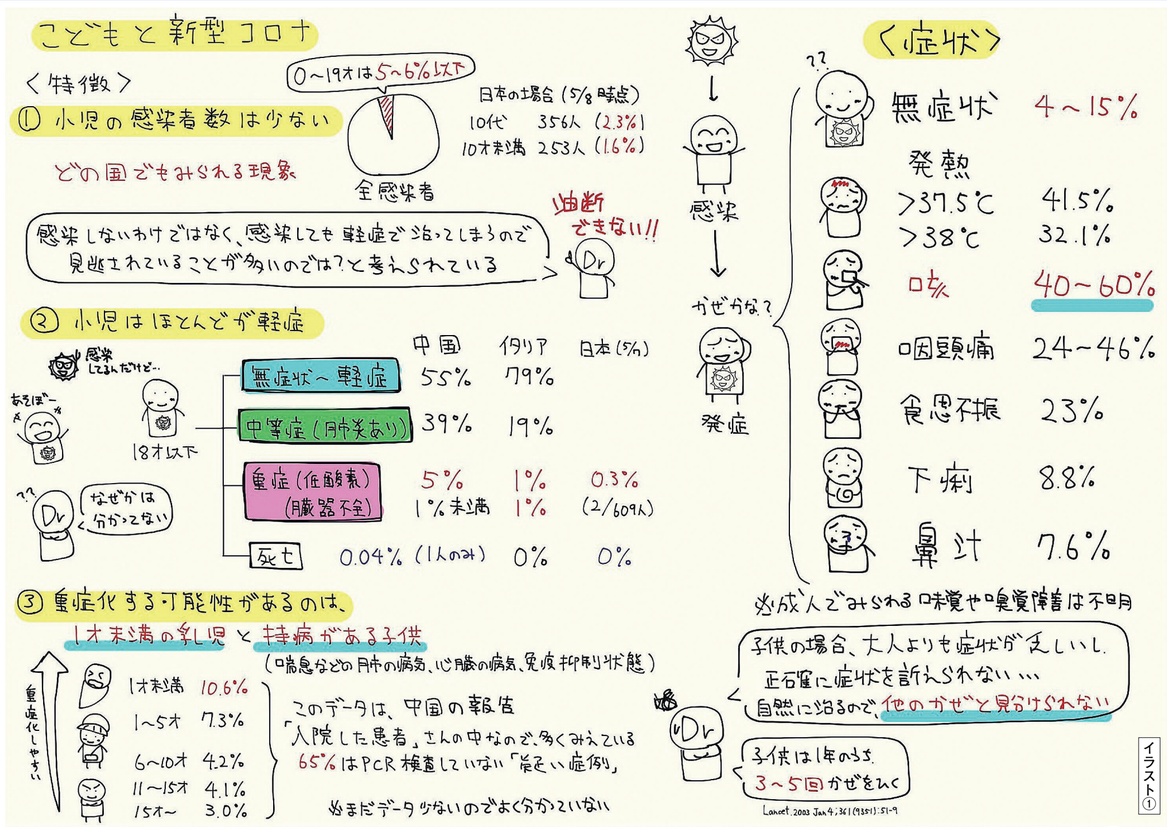
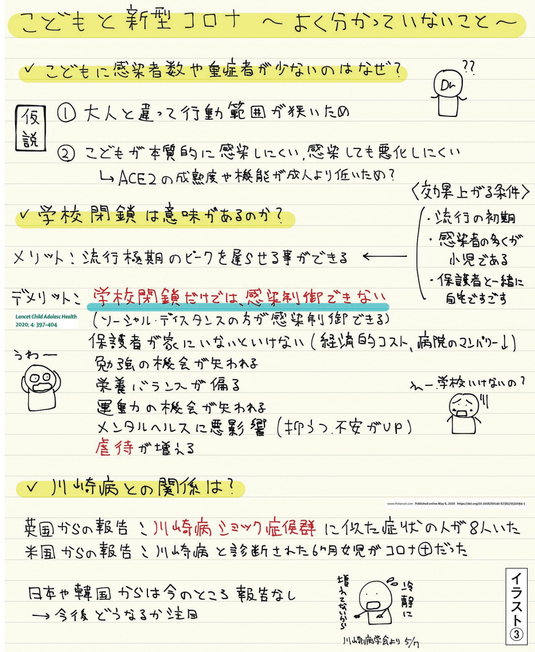
新型コロナウイルス感染を のりこえるための説明書 ⑥

協力：諏訪中央病院





玉井 道裕
諏訪中央病院
総合診療科医師
※今回の連載ではイラストも担当していただきます

村中 清春
諏訪中央病院
リウマチ・膠原病内科医長

新型コロナウイルス感染を のりこえるための説明書 ⑥

協力：諏訪中央病院

子どもに「危険な症状」意識がおかしい 呼吸が荒く苦しそう 水分もとれないほど ぐったりしている が出ていないか確認を

Q 子どもが熱を出しました。どうしたらよいでしょうか?私は職場に行かないほうがよいでしょうか?

A お子様に熱や咳などの症状が現れた場合、まずは「危険な症状」がないかを確認しましょう。「いつものかぜ」くらいであれば、外出は控えて自宅で様子を見てください。同居されている家族の方が職場を休むべきかはケースバイケースでの判断が必要です。

解説 新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）で一番被害を被っているのは、実は子どもたちかもしれません。子ども感染すると高齢者が危ないと言われますが、子どもは感染しても平気なんでしょう?と思われる方は、大変勉強されているかたです。その通りですが、子どもたちにも大変な影響が出ているかもしれないということは知っておいてください。

新型コロナが発生してから、もうすぐ半年が経過しようとしています。この数か月でかなり多くのことが明らかになりました。ただ、情報は日々アップデートされていますが、徐々に新型コロナの正体が見えてきましたが、情報はうまく取り入れないと毒にもなります。デマに惑わされないように注意し、正しい知識を手に入れ、子どもたちを守りましょう。

子どもが感染した場合

発熱や乾いた咳が多い

子どもが新型コロナに感染した場合の症状は大人と同様に、発熱や乾いた咳が出ることが多く、鼻水や鼻づまりは少ないです。ただ、大人と比べて全体的に症状が軽く、大人でみられたような症状が長引くという特徴も当てはまらないことも多いです。ですので、これまでに何度か経験していない「いつものかぜ」と、新型コロナを症状だけで区別するのは不可能だと思ってください。子どもが新型コロナに感染した場合の特徴をイラスト①「**こどもと新型コロナ**」にまとめました。

①子どもが新型コロナに感染したほとんどが軽症で自然に治っていくため、感染者数が少ないように見える

②重症化する可能性は成人と比べれば非常に低いが、起こりうる

③どのような状態のある子どもが重症化するかよく分かっていない

④ただ、持病を持っているお子さんや新生児、乳児の方が重症化しやすいかもしれない

⑤症状だけでは、「いつものかぜ」と見分けがつかない

子どもの症状に注目 直観を信じて行動を

これらの知識を知った上で、お子さんに何か症状がでた場合にどんな対応をイラスト②を基に説明します。

最初にお伝えしたいことは、どんな症状が出ているかを確認しまして、咳があるのか、のどを痛がるのか、苦しそうにしているのか、下痢をしているかなどうか、などです。くどいようですが、症状だけでは新型コロナかどうかは判断できません。なぜ症状に注目するべきかというと、すぐに医療機関に相談するべきかどうかを判断するためです。「意識がおかしい」「呼吸が荒く苦しそう」「水分がとれないくらいぐったりしている」といった症状は命の危険がある症状です。ですので、早めに相談センターか医療機関に相談しましょう。特に小さなお子さんの場合は、症状を上手に訴えることができませんし、ご家族様からみて、いつもと比べて何だかおかしいと感じた場合、直感を信じて行動してください。その直感はほとんどが正しいです。

熱を出した時 世話は代表者一人で

お子さんに何か症状がでた場合、できれば同居の家族のどなたかは仕事を休んでいただくのがよいと思います。まず、まずは上司の方と対応を相談してください。どれくらい地域で感染が流行っているかによって対応は変わってきますので、ケースバイケースでの判断が必要です。

危険な症状がなく、「いつものかぜ」くらいであれば、まずは自宅で様子をみてください。なぜなら、万が「コロナかもしれない」と思ってしまったら、大事なのはまずPCR検査できるかどうかです。ただ、小さなお子さんの場合は自宅内での隔離が現実的には不可能なこともあるでしょう。

その場合の対応としては、お子さんのお世話をする代表者を家族の中で一人決めてください。お世話の方法は「いつものかぜ」の時と同じように熱さましのお薬を使ったり、眠れるようにしっかりとっていただければよいと思います。ただし、症状のあるお子さんとは極力できるだけ距離を保ち、至近距離での接触は控えてください。お子さんを含め、家族全員がマスクをし、手洗いや換気をこまめに行うことも重要です。詳しく説明します。

熱を出した時 世話は代表者一人で

お子さんに何か症状がでた場合、できれば同居の家族のどなたかは仕事を休んでいただくのがよいと思います。まず、まずは上司の方と対応を相談してください。どれくらい地域で感染が流行っているかによって対応は変わってきますので、ケースバイケースでの判断が必要です。

危険な症状がなく、「いつものかぜ」くらいであれば、まずは自宅で様子をみてください。なぜなら、万が「コロナかもしれない」と思ってしまったら、大事なのはまずPCR検査できるかどうかです。ただ、小さなお子さんの場合は自宅内での隔離が現実的には不可能なこともあるでしょう。

その場合の対応としては、お子さんのお世話をする代表者を家族の中で一人決めてください。お世話の方法は「いつものかぜ」の時と同じように熱さましのお薬を使ったり、眠れるようにしっかりとっていただければよいと思います。ただし、症状のあるお子さんとは極力できるだけ距離を保ち、至近距離での接触は控えてください。お子さんを含め、家族全員がマスクをし、手洗いや換気をこまめに行うことも重要です。詳しく説明します。

子どもに感染した場合

発熱や乾いた咳が多い

子どもが新型コロナに感染した場合の症状は大人と同様に、発熱や乾いた咳が出ることが多く、鼻水や鼻づまりは少ないです。ただ、大人と比べて全体的に症状が軽く、大人でみられたような症状が長引くという特徴も当てはまらないことも多いです。ですので、これまでに何度か経験していない「いつものかぜ」と、新型コロナを症状だけで区別するのは不可能だと思ってください。子どもが新型コロナに感染した場合の特徴をイラスト①「**こどもと新型コロナ**」にまとめました。

①子どもが新型コロナに感染したほとんどが軽症で自然に治っていくため、感染者数が少ないように見える

②重症化する可能性は成人と比べれば非常に低いが、起こりうる

③どのような状態のある子どもが重症化するかよく分かっていない

④ただ、持病を持っているお子さんや新生児、乳児の方が重症化しやすいかもしれない

⑤症状だけでは、「いつものかぜ」と見分けがつかない

子どもの症状に注目 直観を信じて行動を

これらの知識を知った上で、お子さんに何か症状がでた場合にどんな対応をイラスト②を基に説明します。

最初にお伝えしたいことは、どんな症状が出ているかを確認しまして、咳があるのか、のどを痛がるのか、苦しそうにしているのか、下痢をしているかどうか、などです。くどいようですが、症状だけでは新型コロナかどうかは判断できません。なぜ症状に注目するべきかというと、すぐに医療機関に相談するべきかどうかを判断するためです。「意識がおかしい」「呼吸が荒く苦しそう」「水分がとれないくらいぐったりしている」といった症状は命の危険がある症状です。ですので、早めに相談センターか医療機関に相談しましょう。特に小さなお子さんの場合は、症状を上手に訴えることができませんし、ご家族様からみて、いつもと比べて何だかおかしいと感じた場合、直感を信じて行動してください。その直感はほとんどが正しいです。

熱を出した時 世話は代表者一人で

お子さんに何か症状がでた場合、できれば同居の家族のどなたかは仕事を休んでいただくのがよいと思います。まず、まずは上司の方と対応を相談してください。どれくらい地域で感染が流行っているかによって対応は変わってきますので、ケースバイケースでの判断が必要です。

危険な症状がなく、「いつものかぜ」くらいであれば、まずは自宅で様子をみてください。なぜなら、万が「コロナかもしれない」と思ってしまったら、大事なのはまずPCR検査できるかどうかです。ただ、小さなお子さんの場合は自宅内での隔離が現実的には不可能なこともあるでしょう。

その場合の対応としては、お子さんのお世話をする代表者を家族の中で一人決めてください。お世話の方法は「いつものかぜ」の時と同じように熱さましのお薬を使ったり、眠れるようにしっかりとっていただければよいと思います。ただし、症状のあるお子さんとは極力できるだけ距離を保ち、至近距離での接触は控えてください。お子さんを含め、家族全員がマスクをし、手洗いや換気をこまめに行うことも重要です。詳しく説明します。

子どもに感染した場合

発熱や乾いた咳が多い

子どもが新型コロナに感染した場合の症状は大人と同様に、発熱や乾いた咳が出ることが多く、鼻水や鼻づまりは少ないです。ただ、大人と比べて全体的に症状が軽く、大人でみられたような症状が長引くという特徴も当てはまらないことも多いです。ですので、これまでに何度か経験していない「いつものかぜ」と、新型コロナを症状だけで区別するのは不可能だと思ってください。子どもが新型コロナに感染した場合の特徴をイラスト①「**こどもと新型コロナ**」にまとめました。

①子どもが新型コロナに感染したほとんどが軽症で自然に治っていくため、感染者数が少ないように見える

②重症化する可能性は成人と比べれば非常に低いが、起こりうる

③どのような状態のある子どもが重症化するかよく分かっていない

④ただ、持病を持っているお子さんや新生児、乳児の方が重症化しやすいかもしれない

⑤症状だけでは、「いつものかぜ」と見分けがつかない

子どもの症状に注目 直観を信じて行動を

これらの知識を知った上で、お子さんに何か症状がでた場合にどんな対応をイラスト②を基に説明します。

最初にお伝えしたいことは、どんな症状が出ているかを確認しまして、咳があるのか、のどを痛がるのか、苦しそうにしているのか、下痢をしているかどうか、などです。くどいようですが、症状だけでは新型コロナかどうかは判断できません。なぜ症状に注目するべきかというと、すぐに医療機関に相談するべきかどうかを判断するためです。「意識がおかしい」「呼吸が荒く苦しそう」「水分がとれないくらいぐったりしている」といった症状は命の危険がある症状です。ですので、早めに相談センターか医療機関に相談しましょう。特に小さなお子さんの場合は、症状を上手に訴えることができませんし、ご家族様からみて、いつもと比べて何だかおかしいと感じた場合、直感を信じて行動してください。その直感はほとんどが正しいです。

熱を出した時 世話は代表者一人で

お子さんに何か症状がでた場合、できれば同居の家族のどなたかは仕事を休んでいただくのがよいと思います。まず、まずは上司の方と対応を相談してください。どれくらい地域で感染が流行っているかによって対応は変わってきますので、ケースバイケースでの判断が必要です。

危険な症状がなく、「いつものかぜ」くらいであれば、まずは自宅で様子をみてください。なぜなら、万が「コロナかもしれない」と思ってしまったら、大事なのはまずPCR検査できるかどうかです。ただ、小さなお子さんの場合は自宅内での隔離が現実的には不可能なこともあるでしょう。

その場合の対応としては、お子さんのお世話をする代表者を家族の中で一人決めてください。お世話の方法は「いつものかぜ」の時と同じように熱さましのお薬を使ったり、眠れるようにしっかりとっていただければよいと思います。ただし、症状のあるお子さんとは極力できるだけ距離を保ち、至近距離での接触は控えてください。お子さんを含め、家族全員がマスクをし、手洗いや換気をこまめに行うことも重要です。詳しく説明します。

玉井 道裕
諏訪中央病院
総合診療科医師

村中 清春
諏訪中央病院
リウマチ・膠原病内科医長

新型コロナウイルス感染を のりこえるための説明書 ⑥

協力：諏訪中央病院

子どもに「危険な症状」意識がおかしい 呼吸が荒く苦しそう 水分もとれないほど ぐったりしている が出ていないか確認を

解説 新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）で一番被害を被っているのは、実は子どもたちかもしれません。ふつう感染すると高齢者が危ないと言われますが、子どもは感染しても平気なんでしょう?と思われる方は、大変勉強されているかたです。その通りですが、子どもたちにも大変な影響が出ているかもしれないということは知っておいてください。

新型コロナが発生してから、もうすぐ半年が経過しようとしています。この数か月でかなり多くのことが明らかになりました。ただ、情報はうまく取り入れないと毒にもなります。デマに惑わされないように注意し、正しい知識を手に入れ、子どもたちを守りましょう。

子どもが